

高校生と川崎市議会議員の意見交換会 高校生の主な御意見

令和5年12月22日開催

【もっと政治や選挙を身近に感じるには？】

- ・政治家が議論をしているという過程に関する報道はあるが、議論の結果に関する報道がなく、自身の生活にどのように反映されているか分からない。
- ・地方の政治に関する内容を知ろうとしたときに、どの媒体を見ればいいのか分からない。
- ・選挙で投票しても、自分たちの意見が反映されないのではないかと懸念がある。
- ・学校の授業で選挙について学ぶ機会が少ないと感じる。
- ・政治団体の内部に、マスコットキャラクターのような応援したくなる広報専用の人員を配置すると良いのではないか。
- ・政治家がカジュアルな一面を見せることで、より身近に感じられるのではないか。
- ・今よりもっと早く、小学校4年生ごろの段階で政治に関する議論をする機会を設けると良いと思う。
- ・日常の中で政党に関する知識を得る機会がない。学校で政治に関する内容を扱うことは難しい。
- ・自分から政治に関する知識を身に付けるきっかけや動機づけがないため、政治に関してほとんど調べた経験がない。
- ・高校2年になると、周りは大学受験モードになるため、政治に関する知識習得よりも学力向上に向けた勉強に集中するため、政治に関する勉強は後回しになりがちであると思う。

【空き家対策について】

- ・誰も住んでいないような近所の家が10年以上放置されており、犯罪が発生しないか不安である。
- ・空き家対策の資金集めのためには、クラウドファンディングが有効ではないか。
- ・老朽化している空き家は災害時などに周囲に危険を及ぼす恐れがあるため、税金を活用して対策を講じてほしい。

【多様性を認め合う社会に向けて】

- ・学校教育の中で外国人と交流する機会を増やしてほしい。
- ・文化祭で企画したバリアフリーレストランでの体験に、非常に感銘を受けた。小学校や幼少期に様々な価値観に触れることにより、多様性に寛容な人格形成につながると考える。市主催のイベントに自由に参加する形式ではなく、学校で開催される方が学生は参加しやすいので、校内で様々な価値観に触れる機会を増やしてほしい。
- ・友人との会話の中で国際的な話題に対する偏見を感じている。周囲に外国人が少ないということや、偏った情報に流されている人が多いと感じている。

- ・国際科に通っているため、外国人の同級生は数名いる。学校の制度を活用してオーストラリアへ留学する予定であることから、英語の勉強に力を入れたいと思っている。
- ・親戚が外国人であるため、外国を身近に感じている。
- ・移民に関するニュースを見たことで、外国人に対して怖いイメージを持つようになった。
- ・インドネシアから来た同級生がいたが、日本語が話せなかったため、担任の先生に英語の先生を配置していたり、授業を抜けて、日本語の勉強をしたりしていた。
- ・東京は声をかけても無視されるイメージがあり、地方は優しい人が多いが、英語を話せないケースが多い。川崎市はある程度英語が話せて、優しい人も多いため、バランスが取れていると感じている。
- ・SNSにおいて外国人差別を助長している内容が投稿されており、差別している人同士がつながりやすくなっていると感じている。一方で、SNSを上手に活用することで、外国人をより身近に感じたり、外国人に対する偏見を減らしたりすることができるのではないかと思う。
- ・多言語対応には限界があるため、SNSにおいてやさしい日本語で発信することが重要と感じている。
- ・男女関係なく、スカートやスラックス等、制服を選べるのが望ましいと思う。
- ・トランスジェンダーについて理解することは重要と認識しているが、議論に際して無意識に当事者にカミングアウトを強いるようなことのないよう、慎重に扱わなければならないと思う。

【安全で快適なまちづくりに向けて】

- ・通学道路が狭く、通学時は人が多すぎて一般人が通れないというクレームが多く寄せられている。
- ・通学道路である6車線道路は車の交通量が多いが歩道が狭く、自転車通学の際の交通ルールに対し住民からクレームが来ている。新しい自転車の交通ルールを学生たちに伝えるため、学校で指導してほしい。
- ・友人から自転車通学の際、踏切が開かず歩道橋の階段を自転車を押して上ったと聞いた。自転車も横断できるようスロープを設置されると、もっと快適になると思う。
- ・南武線が踏切内で停車することがあり、遅刻するため通学ルートを変えた。もっとスムーズに電車が走行できるようにならないか。
- ・ホームドア設置事業について、県や市からJRへ溝口駅へのホームドア設置を促してほしい。

【気候変動への対策について】

- ・「脱炭素アクションみぞのくち」の取組に携わっているが、先行地域の高津区だけではなく川崎市全体で取組を進めていきたい。

- ・マイバッグを持ち歩き、プラスチック袋を使わない心掛けが大事だと思う。
- ・さいたま市や小田原市ではソーラーシェアリングの取組が行われており、川崎でも実施できないか同級生と話し合っている。

【川崎におけるスポーツの発展について】

- ・自宅近辺に400メートルトラックのグラウンドがあるが、小さい子どもが使えるような設備が整っていないため、より幅広い年齢の方が使えるように整備したほうが良いと思う。

【学校生活の中で感じること】

- ・着用する靴下の色が指定されていることに違和感を覚える。生徒にアンケートをとって見直ししていくべきだと考えている。
- ・ダウンジャンパーの着用を禁止する校則の見直しを行うべく、生徒の意見を集めている。校則の見直しを行うに当たっては、単に違和感があるから変えるということではなく、見直しを行う理由をみんなで話し合った上で、検討していきたいと考えている。
- ・ジェンダーや多様性の視点から、制服の性区分をなくし、女子がスラックス、男子がスカートをそれぞれ着用できるようにしてもよいのではないか。また、ポロシャツ等の着用を認めてほしい。
- ・生徒の意見収集のため、インターネットを活用した意見箱を用いている。口頭では伝わりやすいという利点がある一方で、内容によっては直接伝えづらいものもある。
- ・放課後の寄り道は原則禁止されており、保護者からの事前連絡がある場合に限り認められている。学校の図書室が17時になると閉室になることに加え、大学受験を控えた高校3年生の優先利用とされているため、放課後、図書館で自習を行うための寄り道が認められるよう、校則の見直しを行ってほしい。
- ・生徒からの要望をもとに企画を提案しても、実際に行動を起こす意欲のある生徒が少ない。ボランティアを募集しても人数が集まらず、活動も中途半端になってしまうことが多い。より多くの要望を集めるため、生徒が気軽に立ち寄ることができる放課後相談コーナー等を設けたいと考えている。
- ・生徒の意見を現場で聞いて、その声を形にするような役割の職員を配置してほしい。
- ・生徒1人につき1台PC端末を配布されることとなったが、机が狭くなったように感じる。
- ・配布されたPC端末のバッテリーがすぐに切れてしまうので、コンセント付きの机を配置してほしい。
- ・授業中に私用スマホは使用できるが、スマホがないと授業が進まないことや、スマホが使用可能な環境にあることで、授業に集中できないという問題意識を感じている。
- ・GIGA端末利用に関する規制を緩くすれば、スマホに依存することなく授業に集中できるのではないか。

【アンケートでいただいた感想】

- ・緊張したが、充実した会だった。来て良かった。
- ・市役所に来たのは初めてだったので、見学や議員との意見交換ができてよい経験になった。
- ・貴重な経験をさせていただいてありがたかった。また、自分の考えが広がったと感じた。
- ・自分の意見を発信するだけでなく、同年代の意見を聞くことができ勉強になった。
- ・日本人はヨーロッパ人と違い、周りの空気感などに飲み込まれてしまい、自分の意見を言えないことが多くあると思う。だからこそ、知らない人と話すことでコミュニケーション能力が付く意見交換会が大切だと感じた。
- ・今回高校生から出た意見をきちんと受け取って、議会での議論に生かしてほしい。
- ・実際の政治家の方と話していると、皆さんがしっかり政治をやっていることが分かって、川崎市への信頼度が上がった。
- ・この会について目にすることが少なかったなので、もっとポスターなどで宣伝してもよいと思う。